

# Digital Public Art Project

報道関係者各位

2009年9月3日

東京大学「デジタルパブリックアートを創出する技術」プロジェクト  
日本空港ビルデング株式会社

## Digital Public Art in Haneda Airport 「空気の港」～テクノロジー×空気で感じる新しい世界～ 開催&プレス内覧会のお知らせ



2009年10月9日(金)～11月3日(火・祝)  
羽田空港第1、第2ターミナル 入場無料

東京大学の研究者とアーティストとが互いに知恵と技術を駆使して、メディアアートの新しいジャンルの創設を目指す「デジタルパブリックアートプロジェクト」。この度、東京大学「デジタルパブリックアートを創出する技術」プロジェクトでは、「空気の港」エキシビションを、年間6500万人以上の利用者が行き来する日本最大の空港である、羽田空港第1、第2ターミナルの全域にて開催する運びとなりました。

パブリックアートの魅力である、造形的な美しさや空間や自然との調和、場所性に配慮した空間演出。メディアアートの特長である、映像や音声を効果的に用いた動的なコミュニケーションや、インタラクティブ性、リアルタイム性。双方の視点に立った、新しいアートのジャンルが「デジタルパブリックアート」です。様々な思いを抱いた人々が行き来する「空港」という場所が、視覚、聴覚、触覚を楽しませる場所、自らの日常を振り返る、心の奥底に潜んだ感情や記憶の扉をノックする「空気の港」に変容します。

本展は、デジタルパブリックアートの基礎技術となる研究成果をお披露目するとともに、「メディアの未来」「パブリックアートの未来」「情報技術の未来」「コミュニケーションの未来」をともに考え、新たな表現のジャンルとして一緒に育てていく機会となれば、と考えています。

ぜひ貴媒体でお取り扱いいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

東京大学「デジタルパブリックアートを創出する技術」プロジェクトは、科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業(CREST)「デジタルメディア作品の制作を支援する基盤技術」研究領域に採択(平成16～21年度)された研究提案です。

本件に関するお問い合わせ先

<作品、技術等に関するお問い合わせ>

●Digital Public Art Project「空気の港」実行委員会  
広報：上條桂子 <http://www.digital-public-art.org/>  
TEL: 03.5452.5190 / dpa@cyber.t.u-tokyo.ac.jp  
東京都 目黒区駒場 4-6-1  
東京大学先端科学技術研究センター13号館010号室

<展覧会に関するお問い合わせ>

●日本空港ビルデング(株)  
「空気の港」実行委員会  
TEL: 03.5757.8090 03.5757.8520  
東京都 大田区羽田空港 3-3-2

# Digital Public Art Project

## 開催概要

展覧会名	Digital Public Art in Haneda Airport 「空気の港」～テクノロジー×空気で感じる新しい世界～
日時	2009年10月9日(金)～11月3日(火・祝) 開催時間：10:00～19:00 [デジタルパブリックアートシンポジウム] 10月30日(金)
会場	羽田空港第1、第2旅客ターミナル(東京都大田区羽田空港 3-3-2)
展示作品	「別途資料をご参照ください」
入場料	無料
主催	東京大学「デジタルパブリックアートを創出する」プロジェクト 日本空港ビルデング株式会社
特別協賛	京浜急行電鉄株式会社/株式会社乃村工藝社
特別協力	株式会社日本航空/全日本空輸株式会社株式会社
協力	(以下 50 音順) アバゴ・テクノロジー株式会社/株式会社エアロテック/NEC ディスプレイソリューションズ株式会社/カラーキネティクス・ジャパン株式会社/スカイネットアジア航空株式会社/スカイマーク株式会社/株式会社スターフライヤー/有限会社ディレクションズ/デザインプレスギルド/東京エレクトロン デバイス株式会社/東京モノレール株式会社/東芝ライテック株式会社/東洋紡績株式会社 /ナショナル セミコンダクタージャパン株式会社/北海道国際航空株式会社 ほか
後援	国土交通省 東京航空局

東京大学「デジタルパブリックアートを創出する技術」プロジェクトは、科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業(CREST)「デジタルメディア作品の制作を支援する基盤技術」研究領域に採択(平成16～21年)された研究提案です。

本件に関するお問い合わせ先

<作品、技術等に関するお問い合わせ>

●Digital Public Art Project 「空気の港」 実行委員会  
広報：上條桂子 <http://www.digital-public-art.org/>  
TEL: 03.5452.5190 / dpa @ cyber.t.u-tokyo.ac.jp  
東京都 目黒区駒場 4-6-1  
東京大学先端科学技術研究センター13号館 010号室

<展覧会に関するお問い合わせ>

●日本空港ビルデング(株)  
「空気の港」実行委員会  
TEL: 03.5757.8090 03.5757.8520  
東京都 大田区羽田空港 3-3-2

# Digital Public Art Project

## デジタルパブリックアートプロジェクトについて

東京大学 大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻 教授 廣瀬通孝

デジタルパブリックアートプロジェクトは、独立行政法人科学技術振興機構の支援下で2004年より5年計画で実施されている文化芸術を出口とする先端的技術研究プロジェクトである。

急速なデジタル技術の進化の結果、いまやコンピュータは室内のみにて使用されるものではなく、モバイル・ユビキタスという技術に象徴されるように屋外をはじめとするあらゆる空間における利活用が可能である。

現在、ともすればギャラリーなどの限定的な空間で鑑賞されてきたメディアアートも、よりパブリックな空間へと進出し、デジタルパブリックアートとでも言うべき新しいジャンルの形成が期待できる時期を迎えている。本プロジェクトのモチベーションは、以上述べたような状況の下で、新しい作品作りを通じて技術と芸術の新しい関係づくりを生み出すところにある。これまでの技術開発プロジェクトのほとんどが、まず技術開発が単独で進み、最後に学会的な応用事例を見せることを常識としてきたが、本プロジェクトでは最初から技術研究者と芸術家が一体となって研究を推進させるというスタイルを意識的にとっている。したがって、本プロジェクトではすでにいくつかの場所で展示活動を行っている。比較的大規模なものとして、青山スパイラルにおける「木とデジタル」展（2007年5月）、オーストリア・アルス・エレクトロニカにおける「東京大学キャンパス展」（2008年9月（共催））などをあげることができ、いずれも5,000人程度の参加者を得ることができた。ただしこれらは、依然として建築内部のスペースへの作品展開にとどまっており、プロジェクトの最終成果発表の場としては、より本格的なパブリックスペースでの展示を行う必要があると考えている。

パブリックアートは、それがおかれた場所との関係性がきわめて重要である。建築が本来そうであるように、その場における歴史などの、空間的文脈がその作品に大きな影響を与えるものである。また、その一方で、優れたパブリックアートはさらに新たな文脈性をその場に与えることになるわけで、パブリックアートと場とは共進化する関係にあるといえる。したがって、本プロジェクトでは、作品発表の場所についてはかなり注意深く選定してきたつもりである。

今回、日本最大の空港である羽田空港における展示が成功すれば、デジタルパブリックアートというジャンルが単なる実験の段階を超えることを意味し、さらにはデジタルアートがパブリックアートという新しい領域に本格的に進出する足がかりを得ることにもなるであろうと考えている。

Profile/1982年、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。東京大学大学院工学系研究科専任講師、助教授を経て、99年より東京大学大学院工学系研究科教授に就任。同年、東京大学先端科学技術研究センター教授、06年東京大学大学院情報理工学系研究科教授。

廣瀬・谷川研究室 <http://www.cybert.u-tokyo.ac.jp/>



本件に関するお問い合わせ先

<作品、技術等に関するお問い合わせ>

●Digital Public Art Project 「空気の港」実行委員会  
広報：上條桂子 <http://www.digital-public-art.org/>  
TEL: 03.5452.5190 / dpa @ cyber.t.u-tokyo.ac.jp  
東京都 目黒区駒場 4-6-1  
東京大学先端科学技術研究センター13号館 010号室

<展覧会に関するお問い合わせ>

●日本空港ビルデング（株）  
「空気の港」実行委員会  
TEL: 03.5757.8090 03.5757.8520  
東京都 大田区羽田空港 3-3-2

# Digital Public Art Project

## 「空気の港」について

東京大学先端科学技術研究センター 特任助教／アーティスト 鈴木康広

空気は、昔、人類にとって何だか分からない、怪しい存在だったと言います。それがガリレオ・ガリレイによって空気に重さがあることが発見され、その後空気の中に窒素や二酸化炭素などの物質が分析されたことで、空気がどんな「物（の集まり）」であるか科学の視点から十分解明されました。そして、現代を生きる私たちにとって、空気はあたりまえの存在となりました。しかし、「空気」は私たちにとって本当に明らかな存在になったのでしょうか。

デジタルパブリックアートプロジェクトは、メディア技術を用いたパブリックアートの創成を目的とした研究プロジェクトです。本展「空気の港」は、「最先端のメディアテクノロジー」と「空気」を皆さんに感じていただけるような作品で構成されています。

まずメディアの将来といった時に、人類にとって「空気」の存在が怪しく感じられた段階まで遡らなくてはならないと考えました。メディア技術が発達すると、そのサイズはどんどん小さくなり、いずれ目に見えない空気のような存在になってゆくでしょう。それはとても便利なことですが、逆に犯罪やプライバシー等、人々を不安に陥れる要素も多くなります。ユビキタスの究極のかたちは「空気」です。

「空気」の存在に対する考え方を一回リセットし、新たに考えてみることで、「メディア」の将来の姿を描けるのではないかと考えています。

次に、私たちはパブリックアートに不可欠な「場所」に出会うことができました。

空港という場所は、多くの人や飛行機や荷物が行き交う場所であると同時に、さまざまな空気が行き交う場所であるとも言えます。「空港＝空気の港」であり、飛行機は人や物と一緒に空気も運んでいます。空席は空いている席であり、空気の席でもあります。

「Please watch your step」というのは、空港のロビーへと上っていくエスカレーターで流れていたアナウンスです。この言葉は、インフォメーションが多過ぎて逆に無効化されている情報社会について考えさせられるとともに、自分の身を振り返るきっかけを作ってくれました。空港という場所は、アート作品を鑑賞するための場所ではありませんが、日常と連続しながらも非日常である不思議な「空間」です。そこに訪れた人自身が「作品」となることで、自分の日常を振り返り、新たな自分に気付き、自分の内面へと離陸していく場所、それが「空気の港」なのです。

Profile／1979年静岡県浜松市生まれ。2001年東京造形大学デザイン学科卒業。公園の回転遊具「グローブジャングル」を利用したインスタレーション「遊具の透視法」(2001)の発表をきっかけに、国内外の多数の展覧会やアートフェスティバルに参加。デザインの展覧会やイベントにも積極的に参加している。<http://www.mabataki.com/>



photo: Masahiro Fukagawa

本件に関するお問い合わせ先

<作品、技術等に関するお問い合わせ>

●Digital Public Art Project 「空気の港」実行委員会  
広報：上條桂子 <http://www.digital-public-art.org/>  
TEL: 03.5452.5190 / dpa @ cyber.t.u-tokyo.ac.jp  
東京都 目黒区駒場 4-6-1  
東京大学先端科学技術研究センター13号館 010号室

<展覧会に関するお問い合わせ>

●日本空港ビルデング(株)  
「空気の港」実行委員会  
TEL: 03.5757.8090 03.5757.8520  
東京都 大田区羽田空港 3-3-2

# Digital Public Art Project

## ■デジタルパブリックアートプロジェクトとは……

メディアアートをパブリックアートに進化させるための基盤技術開発プロジェクト。以下3つの柱を研究の要素としている。「空間性 (Dynamic Extensivity)」一映像をプロジェクタやモニタに投影するのではなく、人工的なオブジェクトで空間を満たし、その空間の広がりを感じる。「実体性 (Physical Presence)」一ものとしてその場所に存在すること、触れられること。材質感や経年変化を触れて感じられること。「自己参加 (Active Participation)」一体験を受け取るだけでなく、自分自身が行動することで体験が生成される。

## ■プロジェクトメンバー

廣瀬・谷川研究室 <http://www.cyber.t.u-tokyo.ac.jp/>

バーチャルリアリティ技術、ヒューマンインタフェースを端緒として、人間と機械の関係に関する研究を、様々な角度から実施している。高品位なバーチャルリアリティ環境や空間共有システム、ウェアラブルコンピュータなどを用いたライフログ、複合現実感、多量情報の可視化、触覚インタフェース・嗅覚インタフェースをはじめとする五感を対象としたマルチモーダルインタフェースなどの研究に従事している。また、デジタルパブリックアートプロジェクトの中心研究室として、展覧会や作品制作なども手がける。

苗村研究室 <http://www.nae-lab.org/>

理論構築・システム実装から心理実験・アート表現に至るまでの活動を通じて、人間主体の情報技術パラダイムの開拓に取り組んできた。その中核には「空間性・写実性」「身体性・実体性」「感性・創造性」という3つの柱を据えている。実世界とバーチャルな世界の高度な融合を目的として、人に情報機器の装着を強いることなく、公共空間におけるプライバシーにも配慮した、人に調和した情報環境のためのデザインを探求している。

相澤・山崎研究室 <http://www.hal.t.u-tokyo.ac.jp/ja/index.html>

映像処理とマルチメディア応用に関して以下のような研究を進めている。ライフログ、ウェアラブルあるいは、ユビキタスなメディアによる長時間に及ぶ体験記録（映像情報、コンテキスト）の取得と処理に関する研究。ライフログの複合的利用のための集約。実写3次元映像のための圧縮、解析、検索、編集の研究。広域マルチカメラサーベイランス、コンテンツセキュリティ、インターネット上のCGV処理に関する研究など。

川上研究室 <http://tachilab.org/>

バーチャルリアリティ、ロボティクス、コミュニケーションを柱として、慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科の館研究室と共同で研究活動を進めている。主な研究プロジェクトは、相互テレプレゼンテーションロボット「Telesar 2」、「TWISTER」による超臨場感コミュニケーション、再帰性投影技術 (RPT) によるオーグメントドリアリティ、触覚カメラと触覚ディスプレイによる触覚情報伝送技術など。

本件に関するお問い合わせ先

<作品、技術等に関するお問い合わせ>

●Digital Public Art Project 「空気の港」 実行委員会  
広報：上條桂子 <http://www.digital-public-art.org/>  
TEL: 03.5452.5190 / dpa @ cyber.t.u-tokyo.ac.jp  
東京都 目黒区駒場 4-6-1  
東京大学先端科学技術研究センター13号館 010号室

<展覧会に関するお問い合わせ>

●日本空港ビルデング (株)  
「空気の港」 実行委員会  
TEL: 03.5757.8090 03.5757.8520  
東京都 大田区羽田空港 3-3-2

# Digital Public Art Project

## <ビジュアルイメージ>

The image shows a promotional poster for the 'Digital Public Art Project' titled 'Air Port' (空気の港). The poster features the text 'Digital Public Art in HANEDA AIRPORT' and '空気の港 — Please Watch Your Step'. It includes a photograph of the Haneda Airport terminal with a large, translucent, digital sculpture of a person walking. To the right of the photo, there is a list of exhibition details: '会場 羽田空港第1、第2ターミナル', '会期 2009. 10. 9 金 - 11. 3 火', and the website 'http://www.digital-public-art.org/'. Below the photo, there is a large text block: 'テクノロジー × 空気 で感じる 新しい世界'. At the bottom of the poster, there is a list of sponsors and partners, including the University of Tokyo, Digital Public Art Project, and various technology companies.

本件に関するお問い合わせ先

<作品、技術等に関するお問い合わせ>

●Digital Public Art Project 「空気の港」 実行委員会  
広報：上條桂子 <http://www.digital-public-art.org/>  
TEL: 03.5452.5190 / dpa@cyber.t.u-tokyo.ac.jp  
東京都 目黒区駒場 4-6-1  
東京大学先端科学技術研究センター13号館010号室

<展覧会に関するお問い合わせ>

●日本空港ビルデング (株)  
「空気の港」 実行委員会  
TEL: 03.5757.8090 03.5757.8520  
東京都 大田区羽田空港 3-3-2

# Digital Public Art Project

## Digital Public Art in Haneda Airport 「空気の港」 展示予定の主な作品

(※下記の写真はイメージスケッチです。実際の展示とは異なります)

### 空気の人 「空気」の存在に改めて気づく作品

極薄のハイテク素材を用いた作品。中にヘリウムガスが入っており、周囲の空気のゆらぎに呼応してゆらゆらと動く。空間を満たす「空気」という存在を可視化するとともに、人型をしている風船が揺らめく姿は、見る人の様々な感情をかき立てます。



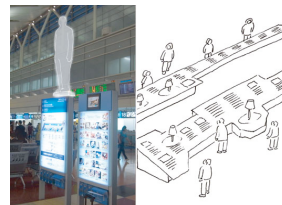
### 出発の星座 空港の天井に星空が出現！

LEDの残像効果を利用した光の作品。飛行機の発着情報とインタラクティブに交信。約3分に1本、飛行機が羽田空港から出発するのと同じタイミングで、天井には光の飛行機が飛んでいきます。羽田空港第1ターミナルが出来た日の星空通りにLEDが配置されています。



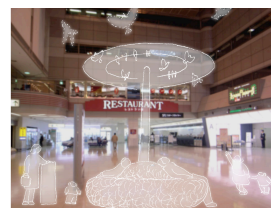
### 呼吸する空港 CO<sub>2</sub>で人の活動量を量る

人の呼吸に含まれるCO<sub>2</sub>は、活気のある場所を知る指標にもなります。CO<sub>2</sub>センサーを空港内の各所に設置し、計測したデータをネット経由で空港内の「若い芽のひろば」に情報を転送します。「若い芽のひろば」にはマップを設置、その上に映像として投影し、現在どの作品がにぎわっているかを表します。



### 木陰のスクリーン 鳥の離着陸

ソファに腰掛けてふと上を見上げると、回転するプロペラに映し出された映像が目に入ります。スクリーンに見立てたプロペラには、空港を離着陸する飛行機を「鳥」として表現した映像を表示します。空港に発着する飛行機とソファに居合わせた人たちをつなぐ映像インスタレーション作品です。



## 本件に関するお問い合わせ先

<作品、技術等に関するお問い合わせ>

●Digital Public Art Project 「空気の港」 実行委員会  
広報：上條桂子 <http://www.digital-public-art.org/>  
TEL: 03.5452.5190 / dpa @ cyber.t.u-tokyo.ac.jp  
東京都 目黒区駒場 4-6-1  
東京大学先端科学技術研究センター13号館 010号室

<展覧会に関するお問い合わせ>

●日本空港ビルデング(株)  
「空気の港」実行委員会  
TEL: 03.5757.8090 03.5757.8520  
東京都 大田区羽田空港 3-3-2

# Digital Public Art Project

## Digital Public Art in Haneda Airport 「空気の港」 展示予定の主な作品

(※下記の写真はイメージスケッチです。実際の展示とは異なります)

### 未来の足跡 一歩先の未来へ

ある人が来た方角、歩いている速度をリアルタイムに画像認識し、その人が次にどこへ行こうとしているのかを計算。その方角を「未来の足跡」前方にプロジェクタで表示します。自分の未来が見えるような、今の自分が遅れているような、時をまたがるふしぎな体験です。空港という場所だからこそ感じられる、自分の「行き先」を再認識できる作品です。



### まばたきの葉 空港内に美しい葉が舞う

木を思わせる装置の中に、開いた目、閉じた目が裏表に描かれた紙の葉っぱを投げ入れると、葉が装置の上部からバラまかれます。空中でくるくると回転する紙の葉は、アニメーション効果でまばたきをしているようにみえます。葉が舞い、自分を包み込む感覚、葉に描かれた目と目が合う感覚は不思議なもの。



### Please watch your step 天から聞こえる声

エレベーターに乗り降りする時に発せられる「Please watch your step」という足元に注意する音声が入り、日頃当たり前になっていることをあらためて問いかけるメッセージに聞こえてきました。エレベーターを通過する人に展示作品に関わるメッセージを指向性スピーカーでピンポイントに投げかけます。利用客が自分自身の内なる世界を訪ね、自分自身を再認識できる作品です。



### 自針と分針 自分が時計の針になる

人がいる間だけ「針」が現れる時計台です。時計の前方にある足マークの位置に立つと、カメラが人をとらえ、その人の映像が時計の針となって表示されます。人が立ち去ると針はゆっくりと消えていきます。空港という場所で自分がいないと動かない時計を目の当たりにして、「自分の時間」や「自分と時計」の関係をあらためて意識できる作品です。



本件に関するお問い合わせ先

<作品、技術等に関するお問い合わせ>

●Digital Public Art Project 「空気の港」 実行委員会  
広報：上條桂子 <http://www.digital-public-art.org/>  
TEL: 03.5452.5190 / dpa @ cyber.t.u-tokyo.ac.jp  
東京都 目黒区駒場 4-6-1  
東京大学先端科学技術研究センター13号館 010号室

<展覧会に関するお問い合わせ>

●日本空港ビルデング(株)  
「空気の港」実行委員会  
TEL: 03.5757.8090 03.5757.8520  
東京都 大田区羽田空港 3-3-2